

## 第4回教育力向上福岡県民会議議事録（要旨）

1 日時 平成19年11月9日16:20～18:20

2 場所 福岡リーセントホテル 「舞鶴の間A」

### 3 会議次第

- (1) 開会
- (2) 海老井副知事挨拶
- (3) 議事  
意見交換

### 4 会議内容等

<挨拶 福岡県副知事 海老井悦子>

委員の皆様にはお忙しい中、第4回会議にご出席くださりありがとうございます。

皆様には、これまで3回の会議を通して、終始ご熱心にご審議いただき、多岐に渡る貴重なご意見をいただきました。

本日は資料にありますように、これまでの皆様のご意見を整理し、審議のまとめとして「福岡の教育ビジョン」の素案という形で事務局のほうで作成させていただきました。

後ほど、資料についての説明を事務局からさせていただきますが、このようにまとめますと、福岡の子どもが抱えている課題、それに対する取組みなど、十分に網羅されているように感じております。

本日は、この資料をたたき台として、「福岡の教育ビジョン」づくりに向けた審議になろうかと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

<県民会議欠席委員の紹介>

横山副会長、金子委員、久保田委員

<資料についての説明事務局>

参考資料 平成19年度全国学力・学習状況調査結果の概要

調査目的： 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。

調査対象： 小学校6年、中学校3年の原則として全児童生徒を対象

調査内容： 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ・主として「知識」に関する調査と、主として「活用」に関する調査
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
- ・児童生徒に対する調査、学校に対する調査

結果概要： 全体としては、福岡の状況は全国平均を0.5～2ポイント程度下回っているが、同じ傾向である。

「知識」は、小学校の国語・算数、中学校の国語で多くの児童生徒が、今回出題された問題を概ね理解している。中学校の数学は基礎的・基本的知識技能をさらに身に付けさせる必要がある。

「活用」は、小学校、中学校とも国語、算数・数学で課題が見られた。

「学習状況に関する調査」では、「毎朝朝食を食べている」、「学校に行く前に持ち物を検査している」、「毎日同じ時刻に起床する」と回答した小中学生のほうが学力調査の正答率が高い。また、「学習習慣が身に付いている」、「ニュースや社会の出来事に関心のある」、「学校の決まりや約束を守っている」、「人の気持ちがわかるようになりたい」と回答した児童生徒のほうが正答率が高い傾向にある（現段階での分析）。

「学校質問調査」では、「熱意をもって勉強している」、「授業中の私語が少なく落ち着いている」、「礼儀正しい」と学校がとらえているほうが、正答率が高い傾向にある。

資料 「福岡の教育ビジョン」(素案)(前回までの議論を文章化したもの)

全体構成：「はじめに」、「本質的な4つの課題についての現状、要因、取組の視点」、「福岡がめざす子ども」、「早急に取り組むべき6つの提案」

はじめに：策定の趣旨、ビジョンの概要、ビジョンを実行する県民への呼びかけ

課題：各課題は見開き2ページ、「取組の視点」は具体的取組である施策・事業には言及せず、方向性や施策等の立案・実施に際する留意点とした。

子ども像：第2回会議の指示をもとに、課題を踏まえた5つのキーワードでまとめた。

提案：4つの課題の要因として共通する実体験不足を第1の提案とした。第2から第4までは学校の教育力、第5は家庭の教育力、第6は地域の教育力を高める観点からの提案

< 協議 >

【会長】

今日の作業は、素案を県民会議の案とし、パブリックコメントや地域の人意見を聞ける段階としたい。大幅な訂正がなければ、素案の内容を少し修正する形で提案したい。

「4つの課題」、「5つのキーワード」、「6つの提案」で、「福岡の教育4・5・6アクションプラン」のような標語をつけたほうが分かりやすいかと思う。

まず、ビジョンの構成について議論したい。

私は毎回会議にでていたので、この素案は非常に読みやすかった。しかし、次の日に初めて読む人の気持ちになってみると、「福岡のめざす子ども」は、最初にあったほうが分かりやすいのではないか。

今までの行政が作成してきた報告書や提言書と比較して違うところはどこか。

#### 【会長】

今までの審議会の報告書と比べて特徴的なところはどこか。少し知事が困るくらいの提言をしたい。ありきたりのものでは淋しい。

#### 【事務局】

これまで行政側で作成してきたものは、全体を網羅したものであり、全体の目標を決めて、事業を展開するようにしてきた。あるいは、いじめ問題など、特定の課題について、その解決方策等を議論し、取りまとめてきた。今回の特徴は、まず本質的な課題を4つに絞って、課題の要因分析をもとに取組の方向性などを決定するという行程は初めてであった。

これまでの会議でいろいろと意見を言ってきたが、変わってきたなと感じている。かなり具体的な案がでてきたが、どんなアクションプラン(だれが、いつまでに、なにを・・・)にするのかを決めないと、提案が目的になってしまう。

今までもいろいろな提言をしてきたと思うが、それが効果的ではなかったために麻生知事が本会議を設置した。この提言を実行するとき、誰がチェックをし、誰が責任をもつのかといったところまで踏み込んで、どう実現していくかを明らかにすることが大切だ。

#### 【会長】

家庭の保護者や地域の人々に学校教育に参加してもらい、学校と地域と家庭が連携するといったことは、これまでもずっと言われてきた。しかし、実行が伴わなかったら、このような会議をしても意味がない。したがって、提言した後に、提言を受けた側がどう実行していくのかということまで見届けないといけない。「このような提言を受けて、こういった取組を行おうとしましたが、現場にもっていったらだめでした。」となると、またこれと同様な会議を設置しなければならなくなる。この提案に対して受け手がどう対応するかが重要である。

もう一つ心配なことは、パブリックコメントへの対応である。学校関係者以外は、現場を知らないから大胆な提言になるかもしれないが、パブリックコメントで提言に対する否定的な意見や「現場ではこんなことできないよ。」といった意見が出たときにどう

するのか。パブリックコメントの取扱いをどうするのかは、重要だと思う。

ビジョンの構成については、「福岡のめざすこども」を最初にもってくる案に賛成。中程にあると印象が薄くなる。

文章に書いていることと図表が一致していない部分がある。「学ぶ意欲」では「一日の勉強時間」、「自尊感情」では「各国の自信度の比較」のグラフが必要だと思う。16ページの「企業の支援」で、「企業が支援しようとしても学校側が受け入れる体制を整えないとできない」といった内容の文言があるが、現実には、学校から働きかけないと企業が支援しにくいので、一番最後の文章は、より積極的な文章のほうがよい。私は「地域や学校、行政が諸規定を整備し、積極的に企業に働きかける」ぐらいがよいと思う。

制度面で一番重要なのは、14ページの「教師の能力、校長の力量の向上」だと思う。やはり優れた先生が教育に携わる、優れた校長先生が学校運営に携わるためにどういう制度が必要なのかと考えると、ここに書いているように「表彰」するだけでよいのか。現実には、持ち回りで表彰するとか、順番に表彰するなどのことが起こっている。今年はA先生、来年はB先生などとやっても意味がない。やはり優秀な先生の評価を処遇に反映させることが大事。また、校長がリーダーシップを発揮しやすい制度を整えないと、いくら提言しても現実に実行できない。

校長にどういう権限を与えるのか、どうリーダーシップを発揮してもらうのか、問題のある先生の指導力を高めるためにどういう研修をするのか、また、どういう基準で教師を採用するのか、など具体的な部分が提言に書けないのであれば、別途、教育委員会などで検討していただきたい。

#### 【会長】

校長のリーダーシップを発揮させるために、例えば、外部資金を地域企業からとってくるということはできないのか。その資金で学校教育環境をいかに整備するか、ということで校長も地域から信頼が得られる。外部資金を獲得するといった権限を、今はないかもしれないが、与えるべきではないか。校長が積極的にリーダーシップを発揮するための道具として、予算や人事などの権限を与えるべきではないか。制度上できなくても、提言には書き込みたい。

#### 【事務局】

校長の権限は、教育の中身は検定教科書や学習指導要領などの大枠の規制があるが、具体的な教育活動については現場の校長に権限が与えられている。人事と予算については教育委員会と校長の関係になる。

校長に人事権があるというのは、校長の考える人事に教育委員会が口出しをせずに、校長の裁量に任せることになる。ただし、校長が自分が気に入った人だけを集めるといふ訳にはいかない。しかし、ある程度広域調整の中で、校長の意見や考え方を優先的に扱っていくことはできる。

予算についても教育委員会との関係になる。現在、県でも取り組んでいるが「学校裁量予算」というのがある。費目の区分に関係なく、節約した分を必要なところへ移して使うことができる。これをかなり拡大していくということになる。教育委員会が校長へ権限を委譲していくためには、その前提として校長の力量、リーダーシップの能力を向上させることが必要である。外部評価や市場原理を学校教育に導入する前提は、それに対応する校長の権限発揮能力。

提言の中身については、昔から心ある人は、こういうことを行ってきた。それを焦点化し、重点的にやっていく。これからは、この提言が県民の意志であるというこ形になる。つまり、県民各界の代表の方に御議論いただいて原案を作成する。そして、実際に県民の皆様にご意見を聞いてまとめあげる。これまでは、各界代表者や学識経験者、行政関係者などが指導してきたがなかなか効果が上がらなかった。十分に浸透しなかった。それを今回は、県民会議の提言として、「これは福岡県民の合意です。」「県民の意志なんです。」といった形で実行を迫っていく。今までは、県教委が「やってくれ」といっていたが、「これは県民の意志なんです。だから、これからはこういう視点で学校教育をおこなってくれ」となる。各関係団体にも同じ形をお願いをしていくことになる。

具体的にどう行うかは、最終提言までにまとめることになる。

また、パブリックコメントを求めると、おそらくいろいろな意見が出てくる。現場の先生からもでてくると思われる。私たちが先生方をお願いしているのは、建設的に対応してほしいということ。実行が難しければ、「なぜ難しいのか」「どうすれば実行できるのか」を明らかにする。福岡県の教育力を高めるといった共通の目標をもって、建設的に実現方策を探るという方法でまとめていかないといけない。

#### 【会長】

最終案までのまとめかたのプロセスを聞きたい。パブリックコメントはあくまでも県民会議の参考意見と考えてよいのか。

#### 【事務局】

県民会議の提言は、常識有る福岡県民の合意であると考えている。パブリックコメントも地区分科会も合意形成のためのプロセスである。県民会議委員17名だけの提言ではなく、県民の合意も得て、福岡県民全体の提言であるにとらえている。いろいろな議論をいただくが言われ放しでもいけないし、非常識な意見に振り回されてもいけない。

この委員がまとめた案は、福岡県の教育に問題意識をもっている人たちの声としてまとめていくということ。そのまとめの案をもとにパブリックコメントを聞いて、ま

とめを大きく崩すことなく、取り入れるべき事は取り入れていくということ。

事務局が、どうやったら浸透していくか、どうすればアクションプランとして実行できるかというところまで含めた最終案にしていくということで確認してよいか。

**【事務局】**

よい。

このビジョンが出来上がれば、事業計画案、予算案等を考えていくと思う。実際に実行に移すためには、具体的な予算措置をどうするのかまで含めて考えてほしい。国の動向に左右されず、県独自で取り組むには、しっかりとした事業計画や予算措置が大切。

提言実現のためには、財政的な支援は必要。

公立の小学校中学校は、なぜ、私学のように自由にやれないのか。学校間の競争にも関係するが、学校間で均一にするような制度になっているのか。

**【事務局】**

公立学校はそんなにがんじがらめだとは思っていないが、公教育なので、政治的な中立を保つ、一定の価値観を強制してはいけない、宗教的な問題などがあるのは事実。私学は建学の精神で、かなり自由にできる。それが嫌いな人はその私学にいかなければよい。しかし、公立はそうはできない。好むと好まざるとにかかわらず、義務教育であるため、その地域に住んでいる子どもはその学校にいかなければいけない。当然、そこには一定の中立性が要求される。お金の問題も、地方財政法で保護者負担の軽減が言われている。したがって、保護者や地元の企業からお金を集めるというのは、難しい。

しかし、中立性を保ちながら、学校の特色を生かしてやれることはかなり大きい。自由度はかなり高いと思っている。

取組を実行するには、予算的な裏付けも必要。だが、効果的な投資をしなければならぬし、投資したお金が生きるような条件をつくる必要がある。できる限り予算の獲得に努めたいと思う。

校長から、「こういう取組をするから予算化してほしい」というのがあってもよいのではないか。

福岡県の校長の任期は何年ぐらいか。また、何歳ぐらいで校長になるのか。

**【事務局】**

任期の定めはない。県立高校では、定年までその学校でがんばってほしいという気持

ちで辞令を渡している。しかし、様々なことが原因で（1年で異動ということはまずないが）学校経営が難しい場合は、心機一転でがんばってもらうために異動してもらう場合があり、臨機応変にやっている。平均すれば3年、採用年齢は54～55歳くらい。

年齢にかかわらず、能力に応じて分けていくことも必要だと思うが、年齢のもつ意味もかなり大きい。

私学を経営しているが、リーダーシップで学校は変わっていく。若返りは活性化につながると思うが、法律上の問題があるのか。「あがり職」としての校長で意欲をもつことができるのか。降格ができないと大変なことになるが、40代で校長になることは可能なのか。

#### 【事務局】

「最後は校長で」という人事は組織の活力につながらない。若いときからの的確性をしっかりと判断して、なるべく早い時期に管理職としての責任ある仕事をさせていく。これが、本来の人事の在り方であると思う。今後の年齢構成や学校の役割を考えると管理職人事は大変重要だと認識している。

「なっとうれしい人事」は、教育現場の活性化にものすごく有効に働く。「なっとうれしい人事」は活性化に働かない場合がある。すべてをそういう人事にすることは無理だが、活性化のためにはある程度必要。

#### 【会長】

「福岡のめざす子ども」を次に議論するということでよいか。

#### 【事務局】

県民に分かりやすく示すには、「始めに子どもの現状はどうなのかを考えてみました。」  
「すると、こういった問題が出てきています。」  
「こういった問題があるので、こんな子ども達をめざしましょう。」  
「そのためには、こう取り組みましょう。」  
といった論の述べ方のほうがよいのではないか。

よくわかる。しかし、インパクトが弱い。敢えて言うと、「現状」を最後にしてもよいのではないか。

9ページの文章を書くときに現状と課題を書けばよい。順に読むよりも、まず答えをだすことが分かりやすい。真ん中に入れると「福岡のめざす子ども」の印象が薄い。

事務局の考えも理解できる。しかし、最初の会議で「福岡の教育はこういうのをや

りましょう」を出すとなった。それから考えると、「福岡のめざす子ども」は前がよい。個人的には、現状と課題は最後まで良いと思っている。

事務局から構成の考えを示してくれたのはうれしい。根拠をもって考えた証拠だと思ふし、大歓迎。しかし、4つの課題から始まると、「また分析かよ」と思ってしまう。それよりも、めざす姿が最初にあるとインパクトがある。

一般の人が、初めて読むときにどうかと考えると、最初からずっと読むことは少ないのではないか。そうすると、9ページに行くまでに息切れしてしまう。大切なのは、これからの姿なので、最初にしたほうがよいのではないか。

また、めざす姿、課題、取組などをまとめたポンチ絵があるとよいと思う。1ページをみれば、ビジョン全体がわかるようにしてほしい。

#### 【会長】

提言なので、課題や分析は基礎資料として必要なものであって、大切なのはこれからのこと。

読む人は、「めざす子ども」と「6つの提案」を最初に読むと思う。1枚を構造図的にわかるものがあればいいと思う。

ものを言うときに結論から言うほうが分かりやすい。最初に求めるものを出すと分かりやすさにつながる。フローチャートのようにしてみるといいのではないか。「こういう姿をめざします。」「でもこういう課題があります。」「そのためにこう取り組みます。」がよいのではないか。

#### 【会長】

課題の分析は重要だが、これまでも言われていること。「めざす子ども」、「提案」、「参考としての課題」の順としてはどうか。

#### 【事務局】

「福岡のめざす子ども」を冒頭にすることには、異論はない。しかし、4つの本質的な課題は、県民に子どもの現状を示す意味からも2番目に記載したい。

#### 【会長】

意図は理解できる。しかし、各章の最初の書き出しの文章が課題に触れていれば、分析は最後までよいのではないか。分析が途中にあるとだらけるのではないか。めざすものが示されれば、次は「では、そのためにどうしましょうか」ということになるのでは

ないか。各章の出だしの文章をどう書くかによる。

起承転結で論を展開していけば、ビジョンの内容は分かると思う。しかし、ビジョンとして提言する際に、理由を述べていくよりも、結論を述べた方が簡潔。「なぜ、そんな提案をするのか」と言われたときに、「実はこういう理由です。」と後で解説したほうがよいのではないか。

#### 【事務局】

「めざす子ども」は冒頭でよいと思う。4つの課題については、その現状、要因、取組の視点を示している。「6つの提案」は「取組の視点」や「要因」の共通性、緊急性を考慮して、「早急に取り組むべきこと」として示している。つまり、「現状」や「その要因」にも取組の方向性が含まれている。

最終的には会長の意見に賛成。ビジョンや提言は、「なにをめざすのか」、「なにをするべきか」を示すことが大切。それを構成するために問題点等を示すものである。「順番に読んでいけば理解できる」というのは、詳細に読む人にだけ当てはまることである。詳細に読む人よりも短時間で読む人が圧倒的に多い。

#### 【会長】

事務局の言ってることも分かる。文章の構成を入れ替えれるときに、各章の最初に書く文章を工夫すれば、そんなにおかしなものにはならないと思う。2案作ってはどうか。

県民に読んでもらいたいのであれば、無関心な人が多いという想定で考えたほうがよい。確かに「めざす姿」を最初にもってくるのもよいが、まず「現状」を共通理解することも大切ではないか。実践をするのは保護者であり、学校の教師であるから、問題意識を明確にするということにおいては、「めざす姿」「原因」「提案」がよいと思う。提言を実現することに重きを置くのであれば、「めざす姿」「提案」「原因」でもよいかと思う。ただし、「課題」や「要因」を参考資料として記載すれば、なかなか読まない。

提言の受け止めやすさから考えると「めざす姿」「提案」の順かなと思う。

学校現場を預かるものとしては、学校現場は「めざす姿」「方策」といった形で取り組むことが多い。広く県民に知らせるのであれば、「めざす姿」「提案」「課題」が分かりやすいと思う。

【会長】

議論の順番としてはこれでよい。提言にするのであれば、順番を入れ替える必要がある。そういう風にさせてほしい。

【事務局】

そのようにする。

【会長】

では、中身について意見があればどうぞ。

14ページの提案の4、教師の意欲や能力の向上の中に、「わかる授業」とあるが、「わかろうとする意欲がわく授業」を付加してほしい。「わかる授業」だけでは不十分であり、学ぼうとする意欲をもたせる授業を実現することが大切。

また、「学校評価システムの構築」で、「第三者評価機関の設置とともに」とあるが、その「ともに」というのはどこに係ってくるのか。「フィードバック等の検討を行う」に係るのか。「設置」も検討するのか、「設置」してその中身を検討するのか。

13ページ。「小1プロブレム」の説明で、「のびのびとした雰囲気のある保育園（所）・幼稚園から、決まり事の多い小学校」という表現はいかがなものか。

また、保幼の連携だが、「保育園（所）と幼稚園の連携協力が必要」とあるが、何を意味しているのか。恐らくできないのではないかと。私立の保育園（所）と公立の幼稚園は市町村が管理している。しかし、私立の幼稚園は管理が県である。保育料の徴収も保育園（所）は、私立・公立とも市町村が行う。私立幼稚園は園が徴収している。保育時間、保育内容も全く違う。システムが違うので、実現はできないと思う。保幼連絡協議会の設置も難しい。保小、幼小の連絡協議会はできると思う。

【事務局】

第3回会議で、委員から保育園（所）と幼稚園の連携が必要であるというご意見をいただいたので、このように記述している。

【会長】

現実にやれる、やれないにこだわって、「今はできない」と言われると提言ができない。理想だとしても、突飛なことではなければ現制度では無理なことも提言としての残したい。

何か案があればお聞きしたい。

## 【会長】

具体的な案は、これから専門部会などを開催して作成するのではないか。

14ページの「学校評価システムの構築」。私学は第三者評価機関は折衝中である。また、義務づけられていない。公立を想定していると思うが、県下の学校となれば私学も入る。学校法人は法律が違うことをお知らせしておく。

第三者評価は、大事なことだと思う。他県でもやっているのか。また、第三者評価については、これまでの議論ででたのか。

## 【事務局】

「学ぶ意欲」で「学校外部評価の充実」という意見がでた。学校外部評価は、PTAや学校評議員などが行う学校関係者評価と、学校とかわりをもたない有識者等で組織した外部評価委員会による第三者評価があり、それを反映させたものである。

学校、家庭、地域の連携は言われて久しい。教育基本法でも取り上げられている。

「小一プロブレム」「中一ギャップ」「不登校」も、子どもが家庭でどんな生活をしているのか、あるいは地域でどんなプログラムに参加しているのかという課題と深くかかわりがある。また、保護者に学校が何かを伝えたくても、伝えたい保護者は、授業参観にも、PTA行事にも参加しないのが現実。その中で、学校、家庭、地域が連携していくキーワードは、子どもの生活体験を豊かにしていくことだと思う。

全国学力調査の報告でも、基本的な生活習慣が確立している子どもが正答率が高い傾向にあるとあった。私の調査でも、サンプル数が少ないが、豊かな生活体験は学力に直結しているという結果が出ている。学力の低い子どもの生活での顕著なことは、よくけんかをするということである。そういう生活体験そのものの中に含まれている問題、課題を解決していく具体的なプログラムとシステムを構築していけば、多くの教員にとっても授業と生活体験が裏腹の関係にあるというのを実感できるようになる。そういったことを提案していけば、学校、家庭、地域の連携はもっと深くなり、進んでいくのではないか。

地域で失われたものの一つに、子どもが年齢ごとに経験してきた通過儀礼がある。子どもは自分が6歳になった、8歳になった、10歳になったという区切りを体験したくないと思っているわけではない。例えば、通学合宿でも、「4年生から実施する」と言うと4年生が一番多く応募してくる。「来年から3年生以上で実施する」と言うと3年生が一番多く応募してくる。「3年生になると通学合宿に参加できるんだ。」という明確なメッセージとして伝わっていく。子どもに通過儀礼をしっかり体験させ

て、ステップを踏ませて、18歳になったら自立していくというプログラムを実行していくシステムを確立させる必要がある。今のプログラムは「お試しセット」みたいなもので、質の良いものは量が少なすぎる、量が多いものは質が悪すぎる。子どもに力をつけていくにしては、今のプログラムはあまりにも貧弱である。

#### 【会長】

現実にはいろいろなことを書かないといけないかもしれないが、提言なので、それを実行するための専門部会を設置しなければならない。骨格はしっかり提言したい。

子どもをコミュニティに引き込むには地域の祭りに参加させること。家庭と地域と一緒に祭りをつくっていくことになる。今は、箱崎宮の放生会に子どもがそれ程参加しない。出てくれば、社会的な序列や縦割りを学ぶことができる。山笠にでてくるだけで社会教育になる。博多一本締めするとき、自分の体の幅から手を出さないということから、他人に迷惑をかけないということ学ぶ。そういったことも含めて実行段階に関する会議が必要になる。

14ページの「校長の力量」に、「また、校長がリーダーシップを発揮することを支援するために、校長の予算及び人事に関する権限を拡大する」と書いてほしい。校長と教育委員会との関係などもあるだろうが、校長のリーダーシップを発揮するための権限の拡大が必要だということを入れたほうがよい。

「教師の意欲や能力の向上」の段落に、「優秀な教員を顕彰し」とあるが、「優秀な教師を評価し、処遇に反映することで、教師の意欲の向上を図る必要がある」と修正してほしい。

#### 【会長】

重要なことである。提言を受けたら、それをどうするかをきちんと議論して、やれること、無理をすればやれること、どうしても現段階では無理なことなどを分析することは必要ではないか。

#### 【事務局】

提言を実行することが基本。県民運動として実行する。具体的にどう行うかは、関係の方々の知恵を絞って、行動計画を立てるという形にしている。

#### 【会長】

今の意見は書き込んでほしい。学校が大きく変える強力なエンジンとなる。

「教師の意欲や能力の向上」について。現状では、教師の視野の拡大の機会が少ない。狭い世界の中において、その人たちが子どもたちを教えている。仮に、サバティカ

ル（長期有給休暇）があって、国内留学、海外留学、あるいは企業と交流するといった視野拡大の機会を与えることにもつながる。「校長の権限の拡大」や「教師の処遇」の言葉は、そのことにつながるので大切。是非、福岡の教員が他県に先駆けて、視野拡大や社会体験豊富となるシステムを作っていってほしい。それが、授業が楽しくなることにもつながると思う。今回は間に合わないかもしれないが・・・。

教師が評価の対象となるのであれば、それに対してきちんと報奨・対価を受けられるようにする必要がある。

提案の 、家庭の教育力向上で、もう少し優しく書けないか。「襟を正して」の文章など、多くの保護者は一生懸命やっている。せめて「子育てに夢をもち」ぐらいの表現にならないか。

家庭の教育力向上で、ここだけ、5つの提案をしているのか。「尊敬される保護者」とか、もう少し文章を工夫してはどうか。ここだけが目立つ。

図を変えることは可能なのか。

**【事務局】**

ご指摘いただいたように修正し、後日、確認させていただく。

**【会長】**

ご指摘いただいた委員に個別に確認して欲しい。

7ページの「体力等」は精神的なことも含めているので、「心身の健康」などにしてみてはどうか。

**【会長】**

他になければ、今後のスケジュールについて事務局から説明を。

**【事務局】**

今回いただいたご意見をもとに、再度修正を行い、会長と副会長に確認をいただく。その後、各委員へ送付し、さらにご意見があれば修正をし、会長と副会長から承認をいただく。それが地区分科会で説明する案となる。

**【会長】**

今の方法でよろしいか。（委員了承）では、そうさせていただく。

では、事務局にお返しする。

<連絡>

【事務局】

今、説明させていただいた地区分科会、そしてパブリックコメントでいただいた意見は第5回会議で報告させていただきます。

したがって、次回は地区分科会を実施した後になりますので、まだ、具体的な日程案がございません。委員の皆様には、後日、日程調整のお尋ねをさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、福岡在住の委員の皆様には、地区分科会への御出席に付きまして、別途、御相談させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして、第4回教育力向上福岡県民会議を終了させていただきます。ありがとうございました。